

- 行きたいと思ったきっかけ

私が大洲交流集会に参加したいと思ったきっかけは
昨年参加した100kmメンバーが大洲にはカッコいい大人がいる、
必ず人生が変わるような出会いがあると聞き自分もそんな人たちに会いたい
いろんな話を聞かて頂きたいと思ったからです。

その人たちはどんなおもいで活動しているのか、何を大切にしているのか、
聞かせていただければと思いました。

- 学び気づき

大洲では本当に熱意があって、元気があって、笑顔があって
圧倒されることばかりでした。中でも私がすぐにでも実践したいと思ったのが
分散会の際に聞かせて頂いた、感謝はしてもらってするのではなく今感謝するという
お言葉でした。その時、私は今まで何かをしてもらってからしか
感謝を持っていなかったと思いました。

やってもらって初めて恩を返すのではなく常にその人を大切にすること
始めてあった人に感謝し大事にすることで縁を繋ぐことができるということが
わかりました。

- 今後の自分

今回大洲に参加させていただき沢山の人のお声を頂きのエネルギーを
もらったとともに今後の生活で生かしていきたい、大事にしたい学びを頂きました。

私は今後生活で今、人を大切にすること始めてあった人を大事にすることを
常に心において生活しかたい縁でつながっていけたらと思います。

また、皆さんから頂いたエネルギーを残り少ない大学生活でやりたいこと
の実現に使わせて頂きます。とにかくやってみることと人とのつながりを大切に
今よりもいい自分を目指して頑張っていきます。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 4年 岡田朋将

今回、地域教育実践交流集会 in 大洲に参加させていただき、多くのカッコいい大人の方々からエネルギーと学びを頂きました。来年社会人になり、いずれ地元に戻り活性化したい自分としては真似したいと思うことがいくつもありました。そんな学びと気づきを2つほど振り返ります。

1つ目は、『面白く楽しい活動が生まれ、部下が元気に輝くのは、責任を持ったTOPが任せることから』というものです。これは分散会で出会った、地域活性化を目指した高校生の活動と公民館に3世代を集めようとした公民館の方の活動を聴いて感じたことです。2団体とも生き生きした発表者の方々だったのですが、共通していることがありました。それは、『責任者の人がやってみると任せていること』です。自分は動きたい人なので、任せて見守ることが苦手なのですが、高校生たちでいう先生が、公民館の方でいう館長さんがやりたいことをやってみる、責任は俺が持つと言って、お金関係や交渉は担当して、それ以外の創造していくところを全部任せていることがつながっているのだらうと思いました。社会人になり働いていく中で、役職の高い立場になったときに動きやすくモチベーションの上がる環境を作れるように動いていきたいと思います。

2つ目は、『相手を動かすのは安心感』というものです。これも分散会で会った公民館の方の話なのですが、学校に公民館のやっていることを広報しようとした時に、先生方も立場があり、『子どもに何かあったりしたら...』『事故や怪我にあたりしたら...』など子を守らねばなりません。それを広報しに学校いった際に、相手の立場を考えて、『明るい時間で終了するようにしますよ!』『子どもさんこんなにもすごかったですよ!』といった安心感の与える提案や、成長、実績などの報告をしているようです。これは会社の営業でも、募集活動でも一緒でも魅力のあるものを伝えようと考えた時、それを買おう、それに参加しようとしてくれる相手にも家族、会社、生活があります。そこにどれだけの安心感やメリットを伝えられるのか、そこがカギになるのだらうと思いました。

以上のことが特に感じたことです。

新しい取り組みがたくさんあり、多くの刺激を頂き、おでんの具のように身にしみこんでくる会でした。来年は社会人になり、立場も変わるためどんなことができるか分かりませんが、この感じた思いを大切に、新しいことに挑戦し続けて、また大洲の場で会えたらと思います。たくさんの学びの機会を有難うございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 3回生 伊原大樹

まず、この地域教育実践交流集会の企画・運営をしてくださった方々、この会に参加し、様々な角度から学びをくださった方々、2日間、本当に有り難うございました。自分にとって貴重な2日間となりました。この2日間で、自分は「巻き込むこと」の重要性を感じる事が出来ました。

「巻き込むこと」とは、自分の活動に協力してくれる人をどう集めるかということです。地域教育では、ただ自分がやりたいことだけを伝えても協力してくれる人というのは限られた人のみに限定されると思います。そうではなく、さらに多くの人、最終的にはその地域に住んでいるほとんどの住民を巻き込んでいくことが、これからの地域教育では求められるのではないのでしょうか。より多くの人を巻き込むことに必要なのは、住民一人ひとりに、「自分のこと」として捉えてもらうことだと考えます。「他人事」だと捉えている人が地域教育などの社会的活動に参加することはほとんどないのではないかと思います。

より多くの人に「自分のこと」として捉えてもらうためには、たくさんのご縁を持つこと、つまり幅広く地域住民との関わりを持つことが必要になってくるのではないのでしょうか。知り合いの知り合いと友だちになることや、自分の知人を友だちに紹介するといったように、自分が既にいただいているご縁をさらに活かすことで、関わりを持っている人たち全員で全員の人間関係の幅を増やして行くことができるのではないのでしょうか。そうして自分の人間関係の幅が広がれば、今まで関わりがなかった人たちに自分から直接アプローチし、自分のしたいことを相手にも「自分のこと」として捉えてもらうことができると思います。そうすれば、今まで以上にたくさんの人を巻き込んで活動することができるのではないかと考えました。

自分が今NPOおのみち寺子屋で行っていることも、より多くの人を巻き込んでやっていきたいと考えています。そのために自分は、まずは自分がこのNPOの活動を楽しむことを意識していきたいと思います。そして周りの人が興味を持ってくれたら、そこから相手の性格や求めていることに合わせて自分のしていることを紹介し、この活動も「自分のこと」として捉えてもらって、多くの人を巻き込んでいきたいと思います。自分が今できることを考え、行動に移して、少しでも地域に貢献できるように頑張りたいと思う事が出来ました。

2日間、本当に有り難うございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 3年 伊藤優希

私がこの大洲の地域教育実践交流集会に参加させていただいて感じたことは主に2つあります。

1つは、地域に対する愛情や人に対する想いの強さです。去年も来させていただいて感じたことでもあります。1日目の交流会や2次会でお話しさせていただいた方々や、2日目のおでん カフェ企画を通じて、さらに深い所まで、この地域に対する愛情や人に対する想いをひしひしと感ずることが出来ました。交流会では、分散会での発表よりも深い所までお話しさせていただいたり、まだ知り合っていない私の相談にまで乗っていただいたりなど、大洲に集まった熱くカッコいい大人たちの愛情や暖かい想いに触れることの出来た時間でした。2次会でも私が学生ということもあり、たくさんの方たちに可愛がって頂きました。恐らく、一生記憶に残るだろう出来事になっていると思います。あれだけの好意や熱意を感じたのは今までの人生でもあの場だけです。あの場におられた方たちは一生忘れられません。そう思わせるほどの濃いエネルギーを頂きました。今の自分にもっと強く勇気と活力を頂けたのは感謝してもしきれません。本当にあの場を用意していただいて有り難うございます。

また2つ目は、2日間という短い時間をより良いものにするためにかけられた時間と手間暇です。2日目のアイスブレイクであったおでん カフェ企画が1年間かけて準備されてきたというお話を若松さんがおっしゃられた時、ハッ?!と私の心に衝撃を受けました。私達も1年間という時間をかけて、「子どもたちのために!」という想いで、おのみち100キロ挑戦隊という事業を頑張るのですが、自分は想いを継続させておの100に取り組んでいたのだろうか? 言い訳をせずに手間暇をかけていたのだろうか? いや、自分は向き合うことから逃げていたんだなと感ずることが出来ました。今、私が推進メンバーとして頑張っている事業があり、それは本番を迎えるまで約2週間という期間ですが、精一杯やって子どもたちに私達の想いの一部でもいいから持って帰って欲しいと思いで、取り組んでいこうと思います。この大洲の地域教育実践交流集会に参加することが出来、本当に良かったです。2日間お世話になりました。拙い文章でしたが、最後まで読んでいただき本当に有難うございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 1回生 宇野秀香

人間として生きていることに誇りをもった。人と人が会う喜び、人と話す楽しさ、笑顔、大好きだという感情、人間だからこそできることだ。この地域教育実践交流集会に今回初めて参加し、たくさんの方と接し、その中でこんな人に私もなりたいと思える方に出会えた。私にとってその方が話すひとつひとつの言葉はあたたかく、ホッとさせてくれるもので、涙が止まらなくなるほどのものだった。私が声を震わせながらした質問、その行動に対してその方は「あなたのその勇氣に感謝します」と言って私の手を両手でぎゅっと握ってくださった。格好つけた言葉じゃなく心から自然とぼろっと出てきた言葉だった。その後もよくお話しし、あたたかい言葉を何度も何度もかけてくれ自然と涙が溢れた。ある人の詩や言葉も教えてくれた。このたった2日間で深いつながりは生まれるんだ、大好きだという感情は生まれるんだ、もっともっとあなたのことを知りたいという感情は生まれるんだと感じた。私もこの方のようにあたたかく、ひとの心を打つような言葉をかけれるあたたかい人になりたい、と思った。

また、この集会に来ている方はそれぞれの活動に対して楽しんで前向きにやっているように思えた。失敗を恐れることなく、熱い想いが途絶えることなく行っているからこそこんなにも目がきらきらしているんだと思う。そんな場で共に二日間過ごせたのは貴重な経験になった。他の地域で行っている活動も知ることができ、自分ももっともっと頑張らなくっちゃ、まだまだ出来る、色んなことやってみたいと思えるきっかけになった。将来の悩みや相談にもものってもらった。「あなたが頑張っていれば助けてくれる人が絶対いるよ」「あなたの周りには人が集まる、寄ってくるよ」と言ってくださった。ものすごく嬉しく自信をもてた。おでん カフェでは若い人から元気をもらえたとたくさんの方が言ってくださったが、私達若者も元気で自信に満ちあふれる大人の方を見て元気をもらえた。お互い、いい刺激となりいい影響を与えあっているんじゃないかと思った。こういうつながれる場があることで自分の輪が広がるのはすばらしいことだ。お別れする際、「また来年会いましょうね」と声を掛け合った、それはおのみち100キロ挑戦隊の5日間を終わるときも同じようなことを言ったなあと思い出した。このような特別な出会いは忘れることがないと思う。

私はこの集会に参加しNPOおのみち寺子屋の学生スタッフとして参加できたことを嬉しく思う。つながりを大切に自分に自信をもってこれから生きたい。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 2回生 塩塚奏子

私が今回第11回地域教育実践交流会に参加しようと思った理由は、過去に行ったことがある先輩から、大洲は楽しく、たくさんストロークがもらえる場であるということを知っていたからです。しかし、日が近づくにつれて、何か目標をもって行こうという気持ちに変わりました。

そこで、今回私が立てた目標は「自分の軸をみつけるきっかけを掴むこと」でした。大学に入学したころから地元に戻って、地元になんらかの形で貢献したいとは思っていたものの、具体的に何をしたいのかははっきりしていませんでした。私は、分散会で現在小学校の校長先生として仕事をしておられる小池先生に出会いました。お話をしていくうちに、将来どんなことをしたいのかを尋ねられ、私は、何をしたいかは決まっていなくても、地元に戻って仕事をしたいということをお話しました。すると、教育委員会でお仕事をされながら、現在島根県益田市で地元の人口を減らさないために、講演会等の活動をしておられる大畑さんという方の話を聞いたらいよいよ進めてくださいました。

大畑さんのお話を聞いて、将来、地元に関わる方法は無限にあるということに気づきました。直接地域に関わる仕事につかなかったとしても、子どもが参加する、公民館でのイベントや市で行われているボランティアに足を運ぶ、このようなことは、仕事をしながらでもできることです。私は、自分の地区で改善したいなと思っていることがあります。それは、現在大人だけで行われている、花壇の草むしりや水やり、お祭りでの屋台を子どもも関わられるようにすることです。

私の祖父母の年代の方は、地域の人との抱わりを大切にしているのがよく伝わってきますが、私の父母の年代の人からはあまり伝わってきません。時代が進むにつれて、地域と人のつながりが少なくなっているように感じる日々です。これらが、もっともっと進むと将来の日本を担う子どもに「生きる力」が育まれなくなるのではないかと思いました。

今回、この交流集会に参加させていただいたことで、今まであまり考えたこともなかった「地域教育」について考えるようになりました。また、今後地元に戻ったときにどのようなことをしたいのか、どんな風に関わっていきたいのかを考えるととても貴重な機会になりました。大切にしたいもの、これだけは譲れないというのも観えてきた気がします。自分がやりたいと思ったことに全力で取り組んで、堂々とお話ができる、そんなカッコいいみなさんと出会えて、私は刺激をいただきましたし、心が温かくなりました。2日間、本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 2回生 岡田美空

私が今回の地域教育実践交流集会に参加して学んだことは、「縦のつながり・循環について」である。おでん カフェにて「参加して感じたこと」というテーマで話しをした際、私は最初のテーブルに“長老たちの知識力・質問力”と書いた。書いた理由としては、分散会で一緒だった長老たちは自分のそれまで生きてきた経験も交え、その事業の本質に触れる質問をされていたが、私はありきたりの質問しかできず、自分と長老たちとの間に質問のスキルの差を感じたからである。自分の知らない世界で話をする大人たちは人生経験の少ない私から見ると、まさに“カッコいい大人”であり魅力的だった。

そうしてメッセージを残し、一通り回って自分のテーブルに戻ってくると、私の書いたメッセージには新しく“長老”“ジュニアリーダー”“循環”“若い力に感動！”という言葉が書き加えられていた。長老（大人）と若者たちが関わることで、若者たちの中で新たなジュニアリーダーを生み出し、若い力の中に変人（長老）の新しい風を入れることで新たな考えが生まれ、長老とジュニアリーダーたちの関わりはいい循環を生むことができると説明を受けた。今回、私は大洲で普段ほとんど関わる事のない大人の皆さんと深い話ができ、たくさんの考え方や刺激をもらった。しかし、もっと気軽に高い頻度で若い人たちと大人たちがうわべのよそよそしい関係ではない、お互いの内側を語れるような機会が設けることができればいいなと感じた。そんな機会を大洲にきた方たちは日常で考えたり、企画として実践している。誰かのために自分の時間を使って行動している大人の方たちのエネルギーは本当にすさまじく、どこからその熱がきているかの深い話をもっと聞くことができればよかったと思った。

最後の講演会で若松さんがおっしゃっていた、「ここに集まる人たちだけがヒーローじゃない。みんなの幸せのカタチを認め合いながら高めていくことが地域教育である。」というお言葉を聞いて、今あの会場で熱量を持っている大人たちだけで地域教育をするのではもちろんなく、熱量を持てる人がきっかけとなって全体を盛り上げていくことが大切であり、エネルギーを持ってまだ成功例がないことに取り込むみなさんは本当に素晴らしいと思うが、私の場合、自分が何かを率先して取り込む時はそのことにおごらず、一緒に取り組む仲間を認めて、“自分が描くみんなの幸せ”ではなく、“みんなで描くみんなの幸せ”の実現に向けて頑張りたいと思った。私は今年で2回目の参加だったが、去年よりも周りをよく見て積極的に皆さんに関わることができたように思う。来年は今年よりもさらに成長して、もっともっと学びを拾いきれるように1年かけて器を大きくしたい。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 4年 丸山晃平

私は、今回、分散会での人間力育成塾の発表者として、参加をさせていただきました。発表者として準備・発表する中で、私たちの活動の魅力を再発見することができました。

発表者に任命いただいたのは、9月22日でした。その日から、おの100のよさを、地域教育を实践される団体の皆さまに届けよう！活かしてもらおう！と意気込んで、後輩の吉川と、発表準備を行なってきました。ある日は、NPOおのみち寺子屋の設立趣旨書を読んで、私たちが目指すべき姿を再確認したり、大洲に来られる皆さんは、私たちから何を聴きたいのか、議論を交わすなど、発表を作り上げる作業を通して、活動の魅力を再認識できました。準備だけでなく、分散会の発表の際でも、多くの感想・質疑を頂くことができ、外から見た、私たちの活動の魅力も知ることができました。

具体的な魅力としては、すべての年代の人にスポットが当たり、循環が生まれることは、長年、活動をしていると達成されることもあります。なかなか意識的に達成することは難しく、こうした循環が、活動の後継者の育成や、まち全体を巻き込んだ、活性化につながるのだと感じました。ほかに、高校生や、私たち大学生にターゲットが向いていることも魅力だと感じました。社会人になるのを目前に、生き方・進路に多感な私たちが、地域や教育について知ること、地域活動に従事する人間も増やすことが可能です。高校生・大学生にスポットを当てた活動の大切さも認識できました。改めて、多くの魅力がある活動だと認識できたことで、来年、社会人になっても、この事業を残していかなくてはならないという使命感にもなりました。

1年生の頃から、皆さまにお世話になり、今年で、4回目の大洲となりました。1年目は、専門用語飛び交う分散会に頭が付いていかず、熱い大人の皆さまに圧倒され、こんな世界があるのかと、衝撃を受けたものでしたが、回数が増すごとに、肩にかかる責任が増すように感じ、今では、もっと地域教育を広げていかなくてはならないと思う一人になってしまいました。今、私は、子どもたちに夢がないことを問題に感じております。個性が重んじられ、子どもたち自身が好きに職業、生き方を選べる時代になる一方で、楽しいものに囲まれて育った子どもたちは、体験不足が原因で、自分の将来を選ぶ判断材料がないのです。自分の夢や目標を創れない子どもたちが、無気力になり、何も手に付かず、人生に絶望するそんな光景を何度か見てきました。自分の生き方について、選択肢をリアルに感じ、将来をイメージできる。そんな生き方を体験する場を地域に提供できないかと考えています。来年からは、一人のサラリーマンです。どこまでできるかわかりませんが、大洲で頂いた、つながりやチカラや使命感を元気に変えてたくましく頑張っていきたいと思います。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 3年 吉見知晃

私は今回このような場所に参加させてもらわなければ、視野が狭いまま社会人になって若いうちから考えておけばよかったなと思うようになっていただろうなと思いました。私は3年生でNPOおのみち寺子屋の中で学ばせてもらってからはや三年が経とうとしています。自分でもまだまだ成長していかないといけないなと思う中で今回初めて行かせてもらい、もっと早くから行っておくべきだったなと思いました。まだまだ世界が学生のままだったなと分散会やディスカッションのなかで思われるような圧倒的な世界観を創り出されていて吸収させてもらうことが多かったです。しかし、そういった中でも地域教育という枠組みの中で悩みや解決するための動きなどが類似していたり、初めて会った人たちと語り合うことのできる空間にすごく居心地の良さを感じていました。居心地が良すぎて飲みすぎてしまったことはいい思い出にします。そういった空間を地元にも創り出したいなと新たな夢も芽生えました。私の地元には地域教育が発展しているのかなと交流集会のなかで何度も自分の記憶をたどって見ていました。そこではあまり思い浮かばなかったですが、後で調べてみると市のホームページには学習支援や職業体験などたくさんの仕掛けがあり、私が小学生や中学生の時にあったのかなと思いました。もしあったのならばもっと大々的にやってほしかったなと思いました。分散会でのお話を聞いていても私はすごく面白そう、魅力的だと思うけど人によってはどこの部分におもしろさをわかってもらおうかなと苦労すると思います。私もおもしろいの押し付けはしたくないですがわかってほしいという想いがあり、葛藤することがよくあります。そういったことももっと若者の意見やご老人の意見など様々な意見を交流させる場を設けていかないと進まないなと思い、ネットワークえひめの方々や継続に携わった方々のすごさを振り返るたび思いだします。私ももっとNPO寺子屋のなかでもっと成長して来年の地域教育実践交流集会 in 大洲で、もっと深い話ができるように一步一步頑張ろうと思いました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 3回生 吉川千砂子

今回、大洲での地域教育実践交流集会には昨年に引き続き二度目の参加をしました。今年も、参加者の皆様からたくさんのエネルギーをいただくことができました。様々な学びがありましたが、その中でも特に自分の心を動かされたものについて書かせていただきます。

私が今年も地域教育実践交流集会に参加しようと思ったのは、私が生まれた地域を活性化させたくて、それについてお話を聞きたい、と思ったからです。私の地元の小学校は閉校してしまい、地域がバラバラになっているなぁ、という所感です。「そんな地域のために何かしたい！」その気持ちはすごくありますが、どこから始めていけばいいのか分からない状態でした。しかし、大洲で出会った方から、いろんなアドバイスをいただきました。その中で一番心に残ったのは、私が地元に対して思っている想いを、ずっとアウトプットし続けることの大切さを教えてもらったことです。私が出会う人に、「地元をこんな風に変えたいんだよね」ということを伝え続けることが、同じ想いを持つ人に出会うことにもなるし、協力してくれる人が見つかることにもなります。すごく納得しました。私の地元への想いは、まだ地元の人には届けられていません。次に帰省をしたときには、どんなことを伝えたいか、準備していきたいと思います。大洲に集まられたみなさんが、私の夢に真剣に耳を傾けてくださり、応援してくださって、本当に嬉しく、次にまた会える時には一回り大きくなって臨みたいと思います。

また、今回の分散会で感じたことは、それぞれみなさんが行われている取り組みに対して、非常に熱い想いをもっていらっしゃるということです。私も、この度、NPOおのみち寺子屋の代表として発表させていただいて、つい熱く語ってしまいましたが、みなさんの熱い想いもとても伝わってきました。それは一人一人が「自分の街をもっとよくしたい」、「子どもたちのために何かしたい」と街の将来、子どもの将来について、真剣に考えていらっしゃるからだと思います。今年の大洲で飛び交っていた「カッコいい」という言葉は、きっとこのことだと感じてます。

最後になりましたが、今年の大洲での地域教育実践交流集會もとても濃い時間を過ごせました。お忙しい中、たくさんの学びを持ち帰られるように、準備してきてくださったことに本当に感謝します。この場があるからこそ、参加者の多くの方が、自分の地域に帰って頑張る元気をもらえるんだなと改めて感じました。本当に2日間、ありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 4年 近藤ほのか

二年ぶり、二回目の参加となった地域教育実践交流集会 in 大洲でした。一度目の参加の時は「教育をするのは先生だけじゃないんだ!」「私もなにかやってみたい!」と新しい視点を得られて帰ってきたことを覚えています。それ以来、尾道での活動にも自分なりに熱心に取り組めるようになったかなと思います。あとは純粹に楽しかったのも覚えています。

それから二年たって、大学四年生になり、就職先も(教育関係ではないけれど)決まって自分の将来について、楽しみな気持ちと不安な気持ちが入り混じっていました。そんな今の私が、今回大洲に行って感じたことは「自らの仕事や活動に誇りを持つこと」の大切さです。分散会で三人の方の取り組みについて聞いていて、話す内容やスクリーンに映される活動中の写真を見ていると、「この人は自分の活動に誇りと愛情を持たれているんだなぁ」ということが伝わってきました。その気持ちを持って取り組むことが何より大切なんだということを感じました。生きているうえで、何事も順風満帆、全てが思うように上手くいくなんてことはそうそうないと思います。それでも、自分のやっていることに誇りをもって取り組んでいけば、途中で諦めたり、満足してそこで終わってしまうようなことはないんだろうなと思いました。もっと上に上に、もっと良くしていきたい、そんな気持ちを生み出す根元に「自分の活動に誇りと愛情を持つこと」があるのだと感じました。

もう一つ、今回大洲に行っているいろんな方とお話する中で注目していたことがあります。それは「表情」であったり「姿勢」です。大洲で出会った方は、みなさん素敵な笑顔をお持ちの方でした。笑い方はひとそれぞれですが、みなさん素敵な笑顔だったことに違いはありませんでした。その中でも、同じ分散会の中で司会をされていた方が特に印象が残っています。相手の目をしっかり見て、口角を挙げ、そして自分の目を少し開いて、前のめりの姿勢で話されていました。そして話力が高くて、素直に羨ましいと思っていました。私もあんな風に話せる人になりたいです。ですが、何事も初めのうちは意識して取り組まないと身に付きません。意識して、意識して自分のものにしていけたらなと思います。

前回とはまた違う魅力を感じた大洲での二日間でした。「また来年も!」と声をかけてくださった方もいらっちゃって、タイミングが合えばぜひ参加したいなと思いました。みなさんが誇りをもって自分の仕事や活動に取り組まれているように、私も自分の仕事に誇りと愛着をもてるように四月からの社会人生活を過ごしていきたい、と大洲に参加する前よりは前向きな気持ちになることができました。参加できてよかったし、なにより楽しかったです。大洲は自分自身が楽しんで学べる場だと思います。このように楽しみながら学ぶ姿勢をこれからも大切にしていきます。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 2年 原田武治

私は、地域教育実践交流集会を通して、この場に来なければ学べなかったであろうたくさんの方のことを学び、多くの気づきを得ることができました。その中でも大きな学びが2つあったので、そこを重点的に述べていきたいと思います。

まず、1つ目の学びとしていろいろな人の人生観、価値観に触れることで自身の目標、大切にしたい価値観が見つかったことが挙げられます。私は、将来の夢として小学校教員になることを掲げており、現在、広島大学教育学部で学んでおります。大学でも教職に関わる多くの講義を履修していますが、現場の現状、声を学ぶことはできなかったため、今回の交流集会でたくさんの方々と出会えて、多くの声を聞いたのは大きかったと思います。特に、私の最近の悩みであった「相手の魅力を引き出すにはどうしたらよいか？」に関して多くの教員の方からお話を聞けました。まずは、からだ全体で話を聞くこと、そして、自分が疑問に思ったことを質問する、それが大事だと学びました。質問となるとどうしても内容を考えがちですが、自身が興味を持ったことこそ一番引き出すことができる質問なのだと思います。また、いくつか自分の人生の糧となった言葉をいただくこともできました。それは「まずは、後先なんて考えずにやる！そして必ず振り返る！」という言葉と「チャンスは今目の前にしかないから待たずにつかめ！」です。私は、何かものごとをやる時に「できるかな？」や「時間あるかな？」などいろいろなことを懸案して出だしが遅くなることが多々あります。だから、今回このような言葉をいただけたことは私がこれから何かをするときに勇気を持つためのきっかけになったと思います。

2つ目は私の気づきになりますが、「ご縁」には感謝をしなければいけないと改めて思いました。今こうして振り返りレポートを書いているのですが、この場では言い表せないほど多くのものをいただくことができました。これも、今回地域教育実践交流集会に参加したからであり、もっと大きく言えばNPOおのみち寺子屋に参加していなければこのような素晴らしい体験ができなかったと思います。私は、ご縁は無限に広がっていると思います。しかし、それを得られるかどうかは私たちの行動次第であるため、「今ここ」の一瞬一瞬を大切にしていかなければならないと改めて思いました。また、今回せっかく良いご縁をいただけて思い出に残る良い経験をさせてもらったので、今回の活動にとどまらずしっかりご縁を深めていきたいと思います。また、本業の学問はもちろん、今しかできない経験をたくさんして1年後の地域教育実践交流集会で少しでも成長した姿を見せられるように頑張っていきたいと思います。

この度は本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 1回生 荒川直哉

今回初参加であった地域教育実践交流集会 in 大洲では、普段体験することのできない異世代交流をすることができました。そこでの私の学びと気づきは、自分らしさについてと地域教育への興味でした。

まず、自分らしさについてですが、これは異世代交流のなかで見つけることができました。大洲で出会った大人の方の熱量は大きく、想いの強い大人の方が多くおられました。そんな方々に憧れを持つ一方、自分の理想とする大人とは何かについて考えを巡らせていました。そこで教えてもらったことが、熱いことだけが正しいわけじゃないということでした。私は熱血であるほうがいいと知らぬうちに思っていました。大事なのは強い想いだと気づかせてくれました。強い想いを持っていれば、表層は自分らしくいることが大事であり、みんなが自分らしくあることが集団の豊かさになると気づかせてもらいました。そして、今回の交流会のように人の豊かさは様々な視点を持つことにつながり、幅広い意見を生むことができることを実感できました。まずは、自分らしさを発掘していけるように、強い想いをもち、根気強く1つ1つのことに取り組んでいきたいと思えます。

次は、地域教育への興味についてです。大洲では、知らない世界をたくさん見せて頂き、地域教育に興味を持つことができました。そして、多種多様な地域教育の手法を知ることができて、価値観を広げることができ、将来への希望が膨らみました。また、私たちは大きくなる中で知らず知らずのうちにのうちに地域教育を受けていたことに気づかされ、これからは私がおの恩を返すべく、自身の興味からアイデアを広げて自分なりのやり方で地域教育をしていきたいと思うようになりました。そのために、大学生活ではいろいろなことに足を突っ込んで、その体験を通して興味を広げ、興味や夢の方向性を定めていきたいと思えます。社会に出た時もその冒険心や挑戦心を忘れず、培ってきた経験を活かし知恵として利用して、多分野にわたり活動していきたいです。そのために、今生きているこの時間を大事にして生きていきたいです。

最後に、私が多くの人との交流や分散会を通して学んだ自分らしくいること、そして地域教育のおもしろさを今できることで表現していきたいと思っています。そして自己の成長だけでなく、将来を担う子どもの成長に少しでも携わり、田舎のよさである密な人間関係や地域とのつながりを大事にして、地域に貢献していきたいと思えます。まずは家族や近い人との人間関係を大事にして、そして地域へと意識を向けていきたいです。これらの2日間で得たものを大事にしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 4年 高橋宏輔

毎年たくさんの刺激を受けてきた地域教育実践交流集会 in 大洲、学生スタッフとして参加できる最後の会となった第11回においても、これまでと同じようにたくさんの刺激、学びを受けました。

分散会(7)においては、同じ大学生が野外活動やコミュニティセンターといった様々な場所で活躍していることを知り、NPOおのみち寺子屋で活動していること以外にも、様々な方法で地域教育には関われることに気づきました。また、その中で、子どもと大人を繋ぐことができる立場にあるのが、私たち大学生なのではないかと考えるようになりました。大学生として過ごせる期間はあと僅かですが、あと僅かなこの時間を大切に過ごしていこうと思います。また、地方創生のために地域で活躍されている方のお話では、私自身、来年から兵庫の地元に戻り、役場に勤めることになっていたのも、とても興味深く聞かせていただきました。地域との関係が希薄化する現代において、地方が生き残っていくためには、そのまちが発展していくためにはどうしていけば良いのか。そのまちが子どもたちに愛されるようになることが大事なのだと学んだように思います。愛されるまちづくりを実践していけるようになりたいと強く感じました。

2日目のおでん カフェ・鼎談の中では、「若者」・「つながり」・「かかわり」といった言葉をよく耳に(目に)したように思います。「かかわりをチカラに つながりをカタチに」とテーマにあるように、たくさんの関わりが結果として、私がこの地域実践交流集会に参加できたこと、この3年でたくさんの方とお会いできたこと、たくさんお話をさせて頂くことになり、私自身の知識・経験となってきました。役場という地域のために働くことができる職場に入ってから、ここでの経験を活かし、若者らしく、他人とのつながりを大切にして、地域の発展に貢献していけるような実践をしていきたいと強く思います。

本当に貴重な体験をさせていただき有難うございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 3年 坂崎結萌

この度は、第11回地域教育実践交流集会に参加させていただき、大変有難うございました。2度目の参加となりました今回の大洲の場で、私が学んだことは2点あります。

1点目は、課題意識を持って生きることの重要性です。この課題意識が、自分の人生や周りの人との生活をよりよくするカギになるということを教えていただきました。現状を観て、「変えたいところはないか」「もっと良くできないか」と、常に模索する意識のことを課題意識だと捉えています。大洲集会でお会いした皆様は、「地域を変えたい・良くしたい」という強い想いを持たれていました。自分の地域に対する課題意識、そして地域への愛が、このような強い想いにつながっているのではないかと感じます。私は、現状に対して不満を持ちながら、我慢して生きていくという人生を送りたくありません。「絶対達成」という信念を持つ私にとって、自分のやりたいことや課題という理想を常に探し、実現させながら人生を生きておられるカッコいい大人の皆様は、憧れの存在です。後悔の無い人生を送っていくためにも、課題意識を持って現状を観て、行動に移せる人を目指していきたいと想いました。

2点目は、目の前の人を大切にすることの素晴らしさについてです。参加者の皆様のお話は、本当に楽しくて勉強になることばかりでした。自分の人生を赤裸々に語ってくださったり、自分の信念を語ってくださったり、アドバイスを下さったりする皆様に、安心感、尊敬の念、「真似したい!」という心が躍るような感情を抱きました。このような気持ちになれたのは、お話をしてくださった方々が、初対面の年上の方と話す緊張を解くように雰囲気を作ってくださったり、これから社会に出ていくうえでのアドバイスを下さったりしたからです。何よりも、私のことを思いながら、寄り添いながら、丁寧にお話をしてくださったからです。その優しさや温かみに触れ、「人を大切にすること」は、大洲で出会った皆様が私にしてくださったように、人の立場に立って、その人が求めている何かをプレゼントすることではないかと想いました。そんな素敵な贈り物を相手に送り続けることが、「関わり」以上の「つながり」を生み出していくのではないのでしょうか。共に過ごした時間の長さに関わらず、自分を語り、相手の立場に立った話や行動をすることで、つながりを生み、深めていけるのだと感じました。

現状の課題を見つける、やりたいことを見つけ猪突猛進に突き進み行動を起こす、目の前にいる人の立場になって関わり、つながり、共に力を合わせていく。あの2日間では、今後の人生の指針になる学びをいただきました。来年はもっとパワーアップした自分で皆様にお会いできるよう邁進してまいります。本当に有難うございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 1年生 時友知花

この2日間で私が学んだことはたくさんありますが特に学んだことは、地域に関わる方法の多様性と人と繋がるためには自分から行動しないとダメなのだということです。

地域に関する関わり方については、分散会で学ぶことができました。子ども食堂で地域の高齢者の方、子どもたちに関わっている方。東京から地域おこし協力隊として愛媛にいられてそのまま活動を続けておられる方。高校生で中学生・地域の方とともに地域の防犯活動をしている方。この分散会だけでそれぞれ違う地域教育があるのだと感じました。それらの発表後に質問や意見交換の場もありましたが、それぞれの地域での活動からの助言が多いなと感じました。それは自分の活動に自信があり、また、他の団体の地域教育も良くしていこうという想いの強さがあるからだと感じました。この分散会では地域に関わる方法の多様性の他にも、様々な経験をする事の重要性も学びました。助言ができるのも、地域教育を実際にしようとするにも全て経験が必要です。大学生だからこそできるボランティア活動や学習を積極的に行っていこうと改めて思いました。

人と繋がるためには自分から行動しないとダメだということに関しては、2日目の「おでん カフェ」で学ばせていただきました。この第11回地域教育実践交流集会 in 大洲についても自分が行こうと思わなければお話をさせていただいたたくさんの方々に出会うこともありませんでしたし、普通に生活しているだけではできない学習はできませんでした。また、この地域教育実践交流会の会場の雰囲気や人の温かさが自分から人と繋がろうと行動できたのだと思います。自分の意見を最後まで聞いてくださり、その意見をまた深く掘り下げてくれることで新たな視点で見ることもできました。人と話すことがこんなに楽しいことで、人の話を聞くことがこんなに自分の力になることを感じることを深く感じました。また来年も成長した自分で交流会に参加します。

私がこの地域教育実践交流会に参加しようと思ったのは、来年4泊5日100km歩く中で子どもたちとどう関わっていくかというヒントを頂くこと、まだふわふわとしている将来の夢を具体化させるための材料を集めたいと思ったからです。実際にこの交流会に参加してお話を聞くと、子どもたちに関わる方法も地域に関わる方法と同じくらい多様で自分とその時、場所に合った方法をこれから見つけてみようと思いきや悩みから楽しみに変わりました。将来の夢についても、自分がもともといた環境に携わる仕事の他にも地域に貢献するために自分には何が出来るか考えたいと思うようになりました。これもこの交流会で自分自身の活動を楽しんで地域のため、子どもたちのために頑張っているかっこいい大人の方々と交流することができたからです。このような機会をいただきありがとうございます。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 4年 小坂祐貴

私は「つながり」の大切さを強く感じることができました。「つながり」の中でも、自分とは異なった考えを持った人とのつながりを持つことの大切さに気づけました。分散会では実践発表に対して、異なる立場から観た意見・質問を通じて交流することで、実践発表が発表だけで終わらずに分散会に参加した全員にとって理解を深められるもの、これからに生かせるものになったと感じました。また、おでん カフェでは、テーブルを移り変わっていくことで、自分より前に座っていた方とも意見交流をできたような気がして、「つながり」を感じることができました。私は教育には一つの正解はないと考えています。だからこそ、自分とは異なる立場の方・異なる考えを持った方との「つながり」を持つことで、考えの幅を広げることができれば、自らの教育実践に生かせると考えています。今回の交流集会のような「つながり」を得られる場を今後も大切にしていきます。

また、今回の交流集会で「つながり」の大切さを感じることはできたのは、参加された皆さん一人一人の、人と関わる姿勢も大きく関係していると思います。交流集会に参加されていた方々は、相手に対しての敬意を持った上で自らの意見を述べられていると感じました。相手に対して敬意を払う、謙虚な気持ちを大切にしているからこそ、意見を言われた側にとっては、自分とは異なる意見であっても受け入れやすくなっていたと考えました。人とのつながりを創っていくためには、相手に自分から話しかけることが第一ではありますが、その上で交流する際はお互いに話すとき・聞くとき、どちらの場合も相手に対して敬意を持つ、謙虚な姿勢で臨むことが大切であると考えました。

また、私たちNPOおのみち寺子屋の学生は60名程で活動しているのですが、学生同士のつながりは十分には創れていないように感じています。自分と似た考えを持った学生同士で集まって話すことが多く、自分とは異なる考えを持っている学生には、自分から進んで関わる学生は少ないように感じます。今回の実践交流集会で「つながり」の大切さに気づけた学生が多くいたように思うので、「つながり」をNPOおのみち寺子屋の学生同士でもより高めていきたいと思います。「つながり」の形には様々なものがあると思いますが、「つながり」を創る根っこにあるのは、相手に対して興味を持つことだと考えています。地域教育実践交流集会 in 大洲では、学生は社会人の方々に自分から興味を持って関わりを求めていました。その姿勢を学生同士が接する際にもできれば良いと考えています。私は来年から社会人となりますが、NPOおのみち寺子屋との「つながり」を続けていきたいと考えています。「つながり」は大切だからこそ、ご縁をいただいた「つながり」を長く継続できるように関わっていきます。2日間有難うございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 1年 仁木創一朗

この第11回地域教育実践交流集会での2日間の気づきと学びは主に2つあります。

一つ目に今回の交流集会の流れについてです。一日目はアイスブレイクをしてその後に分散会の流れはきちんと考えられていると思いました。アイスブレイクはNPOおのみち寺子屋の最初の研修会でもやっていて、改めてアイスブレイクの大事さと内容の凄さを感じました。このアイスブレイクがあったから分散会では素直に疑問に思えた事をきちんと発言できたのだと思うし、内容でも最後のジャンケン電車はゲーム性があって楽しく、どんどん繋がっていくのは「つながり」というテーマに沿っているのかなと思い強く考えられていると思いました。なので、ここでやらしてもらった色々なアイスブレイクを自分の経験として活かしていけるようにしたいです。

二つ目に地域教育についてです。僕は今回主にビジネスマナーと社会人の人達がどんな人達なのかを目的として参加したのですが、目的の事も学べましたがそれ以上に地域教育について考えさせられ学べた気がします。地域教育にするにあたってそれぞれの地域で、子供が少なかったり、地域でボランティアをしてくれる学生や大人の人が少なかったりとそれぞれで問題を抱えている事が分かりました。この色々な問題にはとても考えさせられて自分が子供の頃にやってもらったお祭りなどはとても幸運なことだと気づきもしました。また自分の好きな事から地域教育に繋げた人もいたので僕も自分の好きでやりたいことを地域教育に繋げるような大人になっていけたらと思います。

感想としては色々な社会で頑張る人達の話の聞いたり、相談に乗ってもらえたりしたので来て良かったと思います。色々な人達から話を聞いて一番こころに残っているのは、自分の根っこを深く広くしていけという事です。根っこは比喻で、自分で色々な事を悩んで考えることで自分の芯を曲げないように広く深くしていく事でまるで、倒れないように生やしている深い木の根っこのような人になる事というのは自分の中で深く根付いています。これからはつながりを大事にして、自分の根っこを広げて芯を曲げない人になりたいです。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 1年 杉原青葉

今回初めてこの集会に参加して、実際に働く大人の方々と会話をする中で自分の将来の参考にさせていただけるお話を聞けただけでなく、多くの学びを得ることができました。

学生という視点で見ていると、実際に地域で活躍されている方々は問題をより具体的に捉えているように感じました。自分たちの地域を活性化させるために何が足りていないか、どうすれば状況を打開できるか、何から始めるかすべてきちんと計画をたてて活動されており、堂々と、また生き生きと発表されている姿が印象的でした。その姿から〇〇したい！変えたい！という強い思いを感じ、そしてまさにその熱意こそが私に足りていないことの1つだと気づかされました。おそらく私だけでなく、これからの未来を担っていく私たちのような若い世代は特にこういう熱意を持って何かに取り組む人というのは少ないのではないのでしょうか。何かと言い訳ばかりで自分の本当にやりたいことに正面から向き合わず、そのままなんとなく大人になって社会に出ても、今回出会った方々のようなかっこいい輝いている大人にはなれないのです。自分のやりたいことをはっきりさせ、課題には目標を立ててから軸をぶらさず取り組む経験を積み重ねていきたいです。

また「つながり」や「関わり」という言葉を多く聞きました。地域活性化をはかっていく上で世代間の縦のつながりや、学校、行政、公民館や事業所などの横のつながりは特に重要で、1つの事業を達成するためには絶対必要な条件です。人どうしのつながりにおいては、表面的な「関わり」で終わらせるのではなく、簡単には切り離せない「つながり」へ自分の力で変えていくことで地域発展へ活かします。そして「関わり」を「つながり」へ変えるため、関係を強固なものにするためには、自分を出していく力や見つけてもらう力が必要だとおでん カフェで学びました。また私自身は人を大事にすることだと思っています。人との関わりをご縁と捉えて未来へと活かしていく。私たちの活動でも組織力は特に重視されているので、仲間やいつも様々なところで様々な形でおの100を応援してくださっている地域の方々や尾道の企業様方に感謝を忘れず、今後もずっとこのつながりが続いていくように魅力を発信していきたいです。

実のところおの100を地域教育と捉えたことがなかったので、大人の方々のご意見を参考にまた新しい視点でおの100を見ることができました。そして自分の抱えている課題や大切にすべきことを新たに見つけられたので今後しっかり意識して生活していこうと思います。また将来のことについてたくさんアドバイスをいただけたことが自分の中で本当に大きかったです。ありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 3年 石崎 航佑

私は今年初めて大洲で行われた地域教育実践交流集会に参加しました。その中で様々な学びを得ることができましたが、その学んだこと、気づいたことの中から特に印象に残っていることについてまとめていきたいと思います。

それは「自分たちの存在が、別の誰かのバックボーンとなる」ということです。地域教育は将来の社会を考えていく中で非常に重要な取り組みです。しかし、人々の関心が高いかという、必ずしもそうとは思えません。私自身、誇りをもってNPOおのみち寺子屋で活動し、おのみち100km徒歩の旅へ参加しています。「がんばっているね」というようにほめていただくこともあります。時には周囲から「変わり者だね」という評価を受けることもあります。ですが、大洲のあの場所では誰もが信念を持ち、素晴らしい活動を行っており、何より互いの活動を尊重し合っていました。私はあの場所で居心地の良さを感じました。それはきっとあの場所では「変わり者だね」と思われることはないと感じたからでしょう。その時点で私の中には自分を肯定するバックボーンができつつあったのだな、と思います。大洲に参加された皆さんから「おの100の学生さんはすごいね」といっていただくことは、本当に有り難いことだと改めて感じました。

また、様々な人とお話をしていく中で、ある方がこうおっしゃられていました。「この場は素晴らしいけど、普段の活動では思うようにいかないこともある」。私も共感して聞いていましたが、私はその後の言葉に深く感動しました。「だけどそんな時こそ、この場で得たつながりや学びが力になります。ここでの学びは自己満足ではなくバックボーンとなるのではないのでしょうか」。この言葉を聞いたとき、おこがましい話かもしれませんが、私たちがこの大洲に来て頑張っていることも誰かの心の後押しになっているのではないだろうか、と思いました。もしそうだとしたら、これほど嬉しいことはありません。

大洲での交流を通して改めて自分たちの今後のあるべき姿というものを再確認することができました。誰かの活動が自分の支えとなる、そして自分の活動が誰かの支えとなる。この関係性の構築はおの100の活動を続ける中で、最高学年として意識していくべき大切な要素だと思います。大洲での学び舎気づきを決して無駄にすることなく、これからの私たちの活動にも全力で取り組んでいきたいと思います。この度は貴重な経験を積む機会をつくっていただき、本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 2回生 石川啓生

今回、第11回地域教育実践交流集会に参加してみて、「地域教育」を実践している多くの人と関わるなかで、自らの夢(小学校の教師)と関連付けながら参加し多くの学びがありました。交流集会で「カッコいい大人」という言葉が多く出てきましたが、自分の中では大洲の交流集会にいた大人はみんなカッコよかったです。その理由を考えたら、あその場にいた大人達は熱く強い信念を持っているということでした。みなさん「地域のために」「誰かのために」など何かゆるぎない想いを持っているからだと思いました。私自身、教師を目指しているものとして子ども達に誇れるような、自分の揺るぎない信念というもの、大切にしたいものは何かを探している途中です。おのみち寺子屋での体験や大学生活での日頃からの体験を通して、私の目指すべきもの大事にするものというものを自分の中で見つけ常に念頭に置き、持ち続けるというのが自らのこれからの課題であると考えています。また、今回異年齢での方と交流していく中で、普段の学生同士での意見ではなく、経験を踏まえての意見や違う観方をした意見をしていただけました。その中で、自分達には考えつかなかった観方や考え方、多くの人と交流することで自らの視野というものがとても広がりました。この広がった視野というものは生徒の声を聞く教師としても必要なことです。今回の体験を大切に、多くの観方というものを持ちながら、日常生活にも活かしていきたいと思います。更には、多くの意見をいただくことで、私たちの活動「おのみち寺子屋」についての魅力を再発見することができました。逆に、考えるべき点など改めて自らの活動について考えさせられる機会となりました。今回の意見や気づきを「おのみち寺子屋」にぜひ活かしていきます。今回の大洲での「地域教育」ということから、自らの出身の地域について考えることもありました。地元回帰というのを目指して頑張る多くの地域の方の話を聴く中で、自分は地元に戻って先生をやりたいのか、いや他の地域で先生をやりたいのか、考えました。いまはまだ答えは出ませんが、長く住んでいる、広島で教師をやりたいと思っています。しかし、ここで私が答えを決めきれないのは、広島という地域に対して絶対的な愛着がないからであると思いました。自分自身が、地域に対して目を向けることがとても少なかったからです。まずは、地域の特色や、どういう活動をしているかなど、目を向けることから始めていきます。今回の気づきから自らの地域について深く知って、関わりをもつ人は少ないことがわかりました。だからこそ、私自身が教師になった時、自らの住む地域に対して生徒一人一人が愛着を持てるように、また、地域との繋がりを大切にするのを教えていけるような教師、そんな大人になります。2日間本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 2回生 太田琴

私は強い想いを持つことの大切さについて2つのことを学びました。

1つ目は、強い想いを持つことが思い描いたことを実現させるということです。地域教育実践交流会に参加していた方々は、自身が住む地域をよりよくしていきたいという強い想いを持っておられました。新しい発想を生み出しては、ゼロから企画をして実践する。ときには状況が困難で失敗してしまったとしても、さまざまな工夫を凝らして成功させる。このような体験談を聞き、強く想うことが思い描いたものを実現させる力になるのだと学びました。

2つ目は、「地域を活性化させる」ことの意味です。地域を活性化させるということは人をしあわせにすることなのだ、お話を聞いていく中で感じました。人の喜ぶ顔を見たい、子どもがいきいきと過ごせるまちにしたい。地域教育実践交流会で出会った方々の原動力は、人の喜ぶ顔を見るためや、子どもたちの未来を想うことでした。こういった、人をしあわせにしたいという想いが地域を活性化させることに繋がるのだと学びました。今まで私は「社会に貢献する」「人のお役に立つ」といった言葉を真の意味で理解できていませんでした。自分の中に実感として湧いておらず、自分が将来やりたいことと周りの人のしあわせは繋がっていませんでした。しかし、人の幸せのために想いを持って活動している方々の生の声を聞き、まずは、今の私をつくってくれた人にお返しをしたいと考えようになりました。そのためには、NPOおのみち寺子屋の活動で身についた「まずはやってみることを大切にします。難しそうだと感じたことに積極的に取り組むことで、新しい発見をしていきます。視野を広げることで自分らしい方法を模索し、社会に還元する方法を探したいと思いました。今の私の夢は、お絵かき教室を開くことです。今までは自宅の一室で開こうと考えていました。しかし、川島公民館の職員の方のお話を聞き、公民館などの公共の施設の方が、地域の活性化や子どもの教育を目指してイベント企画に尽力していることを知りました。このような情報を自分から掴みに行くことで、公共の施設がやりたいことと自分の夢の実現が繋がり、さらには地域活性化の助けになるのではないかと考えることもできました。そして、こういった想いを持つことができたのは交流会の機会をつくってくださった方々のおかげです。参加をしたから自分の生き方について深めようとする考えに至りました。機会をくださった方々にお返しをする意味でも、日々を丁寧に過ごし、成長し続ける人であろうと思いました。さまざまな生き方に触れることで、自分のやりたいことに対して身軽に取り組もうと思う勇気を頂けた体験になりました。ありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 4年 池谷知将

自分の住んでいるまちを好きになる。その大切さを改めて感じる事ができた2日間でした。私は地域教育と考えると子どもを最優先に考えなければならないと頭が固くなってしまいます。だけど、シンプルに考えたら地元のお祭りに参加することや、公民館イベントと地域に根付いている活動に参加すること、地域にずっと関わり続けることでも良いのでは、それも地域教育の一つではないかと参加して思いました。現在、こども食堂のことを卒業研究で書いているということもあり、この2日間でたくさん知ろう！と意気込んで参加しました。実際にこども食堂に関わっている方々とお話をしていると、本当に自分は何も知らない、知識も情報もまだまだ足りない、もっと勉強しなくてはと自分はまだまだ成長できると感じる事が出来ました。こども食堂だけでなく、たくさん実践されている方々とお話をさせていただきました。どの活動も魅力的で、どれもしたい！と思ったのですが、そのなかでも自分の心が揺れ動いたのは、どの活動もすべて繋がっている！と感ずることができた瞬間でした。それはおでん カフェのとき、全員が自分のまちのために、ともに参加している方々のまちのために楽しく真剣に議論している姿でした。地域のために何が出来るか、子どもたちに何を残せるのか、を考えている時間を共に過ごして、やっている活動は違ってても目的は変わらないのだと思いました。あの時間は自分にとって本当に楽しく、この人たちに追いつきたい！と新たな目標が出来た充実した時間でした。この2日間で自分も何かしたい！何をするかはまだ思い浮かばないけど、自分が出来ることをしていきたいと思いました。今できることはおの100で後輩のために、これから社会人になるためにより一層成長することと、卒業研究でお世話になっているこども食堂にこの学びを伝えより良いこども食堂にすることです。出来ることはたくさんあるので、一つ一つ想いを込めながら取り組んでいきたいと思えます。

2日間で一番印象に残っている言葉があります。みかんの木の根っこには役割がある、横に伸びる根っこは栄養を吸収する根っこ、縦に伸びる根っこは水を吸収する根っこ、という言葉です。それを聞いて、私は自分の置かれている環境の中でベストを尽くす！身近な人をもっと大切にしよう！と思いました。身近な人に水をあげて、関わる人に栄養を与える、それもより相手が成長できる栄養を与えていきたいと思いました。そのためには自分が魅力的にならないといけません。だから今を楽しみ、元気に過ごしていきます。自分らしく元気に笑って過ごして、来年は今年以上に成長した姿で大洲に行きたいと思えます。2日間ありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 1年 池田陸人

僕は今年初めて地域教育実践交流集会に参加しました。僕が参加した理由は、おのみち寺子屋の活動を通して子どもたちと多く関わっていく中で自分がどういう風に子ども関わればいいのかを考えるヒントを得たからです。実際、教育現場に携わる方が多くいるこの交流集会で色々活動を行っている方とお話することで様々なヒントを得ることができ、非常にたくさんの学びを持ち帰ることができました。

この交流集会には、カッコよくて尊敬のできる大人の方たちがたくさんいました。自分の住む地域を少しでも良くしようと考えて必死に動いている人が沢山いました。分散会に分かれて発表を聞いて思ったのが皆さんのやる気がすごいということでした。皆さんが自分の地域と活動の良さを伝えるためにすごく準備をしてくれているのが伝わっていききました。自分たちの活動のプレゼンに対して手間暇をかけて作りこんでいくところを見習う必要があると感じました。そうして、発表を聞くうちに感じたのは大人が全力で何かをするというのはすごくカッコいいなということでした。自分が子どもだったと考えたときに、自分の地元の保護者の方々や先生方が様々なイベントを開催してくださって、大人の方々も自分たちと一緒に楽しんでくれるっていうのはすごく嬉しいことだと思いました。そんな大人の方の姿を見て育つ子どもは絶対地元のことが好きになって、いずれは地元のために何かしたいと考えるようになると思います。自分の地元でも、もっとイベントなどを行って地域を盛り上げてもらいたいです。その手伝いをするためにも地元のことをもっと知りたいたいと感じました。

交流会では、何人かの方に子どもとの関わり方を聞くことができました。その中でも印象に残ったのは、子どもは一人ひとり違うという話でした。その方は、子どもとの関わり方に正解はないし自分は今も学び続けたいと仰っていました。よく手がかかる子はしっかり面倒を見てあげないとほててしまったり、拗ねてしまったりしてしまう。でも、その子の相手ばかりをしていると今度は別の子が不満をもってしまふ。何にも言わない子は手がかからないのではなくて自分中に不満をため込んでしまふ。このように単純な答えはないそうです。ただ、唯一の解決法は子どもたち一人ひとりをしっかりと観察して全員のことを考えてあげることと仰っていました。僕はこの言葉に感激を受けました。これは、あたりまえだけどあたりまえに出来ていない事だと思いました。僕も、目の前のやる事が忙しくて子どものことを考えられてない時がありました。これからは少しでも子どものためになるように一つ一つのことをしっかりと考えていけるような力を身に付けていこうと思います。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島経済大学 二年生 竹内健太

今回、地域教育実践交流集会に参加して感じたことは3つあります。1つ目は動かないと始まらないこと、2つ目は楽しむこと、3つ目は発信することです。

1つ目の動かないと始まらないことは分散会において他の団体の活動内容や活動するきっかけとなった出来事などを聞くと私の中で以前にも自分の住んでいる地域に対して感じたことがあったり、テレビを見ながら思ったことがあるものもありました。思うことは誰にでもできることであることに改めて気づかされたからです。思ったとこで動かなければ思っていないのと同じこと、やらないと何も変わらないし、何も起きないと思いました。

2つ目の楽しむことは1つ目同様、分散会で強く感じました。壱岐小学校おやじの会の井野様の話し方だったり活動内容を楽しく話されていました。楽しくやらないと意味がないという話もあり、とても魅力を感じ私も参加したくなりました。各々活動している内容は違って楽しく、楽しむことは誰にでも工夫1つでできると思います。それをチーム全員でできることで素敵な活動になり魅力的なのだと思います。楽しむのとふざけるのは違いますがそこが大洲でも言われていたメリハリだと思います。ワイワイするだけでなくやるときにはやるから楽しめると思いました。

最後に3つ目の発信することについてです。様々な活動を知り意見交流ができたのは交流会に参加したからというのもあるかもしれませんが、これだけの人たちが自分たちの活動を発信しに来てくれたから、意見を発してくれたから気付けた、知れた、感じる事ができたと思います。おでんカフェでもいろんな意見がテーブルで発せられました。どれも捉え方が様々で表現の仕方でこれだけ意味合いが変わってくるというのもありました。みんなが黙っていたらあのような会にはならないと思います。みんなが、発信してくれたからとても有意義な魅力的な場になったと思います。発信の大切さを強く感じました。

ほかにも多くの学びをくださったカッコいい大人たちになるにはこの3つは欠かせないと思いました。短い時間の中で多くの学びがあったのは様々なご縁があつてのことだと思います。この機会に学んだことを学んだまま実践できなければ今回の地域教育実践交流会に参加した意味がないと思います。学んで終わりではなく次につなげるには自分次第です。カッコいい大人たちになれるようまず来年の地域教育実践交流会までに今回感じた3つを実践していきたいと思っています。自分のスキルを高められるようにそして、地域に貢献できるようにカッコいい大人を目指してこれからNPOおのみち寺子屋の学生たちと頑張っていきます。多くの学びをありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 2年 長井夢香

私は地域教育実践交流集会 in 大洲に参加して、多くのことを学ぶことができました。ここでは、ギャップがカッコ良いということ、地域教育を行うことに年齢など関係ないということ、大洲という場所があるから頑張れるということについて書いていきます。

まず、ギャップがカッコ良いということです。分散会で事例発表された方や、「おでんカフェ」で学びました。大洲に参加されている方はとても気さくで話しやすく、楽しいことやふざけることが大好きな方が多いという印象があります。しかし、地域教育の話となると誰よりも熱心で真剣で真面目に活動について話してくださいます。大の大人が時にはふざけ、時には真面目に地域教育に取り組んでいる。そのギャップこそが学生から見た「カッコ良い大人」になるのだと感じました。少しでも大洲で出会った「カッコ良い大人」に近づけるように、楽しむ時と真面目な時のメリハリをつけていきます。

次に、地域教育を行うこと年齢など関係ないということです。これは2日目の「おでんカフェ」で学びました。第2ラウンドで私が行った机には「満80歳になりました」と書かれていました。その方と直接お話しできたわけではありませんでしたが、80歳になっても地域のために活動されている方がおられることに驚きました。私より若い高校生の世代から80歳の方まで幅広い年代の方々が地域教育に関わっておられますが、地域教育を行うことに年齢など関係なく、大切なのは地域のために、地域を良くしたい、という気持ちなのではないかと思いました。幅広い年代の方と交流できる大洲は学生にとっても、年配の方にとっても、貴重な場であると感じました。

そして、大洲という場所があるから頑張れるということです。これも「おでんカフェ」で学びました。ファシリテーターの方が「他の方の成功例は自分の支えになっている」とおっしゃっていました。他の方のお話を聞くことで自分の背骨を太くし、どんな困難にも負けない強い心を作っていけるのだと感じました。同じ方向を向いて頑張る仲間がいるから自分も頑張ろうと思えるし、大きく成長した姿で出会った方々と再会したいと思うから頑張れるのだと思います。

年に1度大洲に集まって自分たちの活動を報告しあい、1年間の活動の元気を蓄えて地元に戻り、地元で活動を続け、また大洲に戻って来る。帰る場所があるから頑張れるのだと感じました。全国各地から様々な年代の方が集まり、交流できる場があることがとても素敵なことだと思いました。

最後に、第11回地域教育実践交流集会 in 大洲に参加できて本当に良かったです。多くの学び、気づきを有難うございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 1年 長沼知寛

今回、第11回地域教育実践交流集会に参加させていただき、たくさんの人とかかわり、様々な地域教育事業に触れることで多くの学びや気づきを得ることができました。その中でこのレポートでは特に心に残った三つの学び・気づきを感謝の気持ちを込めて記そうと思います。

一つ目は「つなげる、つながる」です。これはテーマでも触れられているくらい、この集会の色々なところでキーワードとして出てきていましたが、幅広い世代がつながっていく“タテの連続性”、同じ世代とのかかわりを強めていく“ヨコの関連性”、歌・音楽・ラジオ・祭りなど複数の方法がある“つなげ方”、かかわりをしっかりつながりにもっていく“コーディネーター”。「つなげる」を掘り下げてみるともっともっと深い内容につながることが再認識できました。地域教育をするうえでここは常に意識して行動していかなければならない、意識しないと循環させることができない、と気づかされました。

二つ目は「幸せ」についてです。これは、おでん カフェのときに同じホームの方が他のおでんグループから持ち帰ってきてくださった“四つの幸せ”のことです。“人の役に立つ”、“褒められる”、“愛される”、“必要とされる”以上の四つが“四つの幸せ”です。僕ももちろん幸せを感じるために人の役に立ち、愛され、褒めてもらえ、必要とされるような人目指しますが、「自分だけが幸せでも楽しくない！周りの人にも幸せになってもらいたい！」との考えで、この集会以降は、以前にも増して周りの人を「褒める！」「必要とする！」を特に意識して行動するようにしています。こういった普段から意識が薄いものを行動に移すことは骨が折れますが、辛抱強く続けていきたいです。

三つ目の学び・気づきは、鼎談であった「大根役者」です。ここでのこの言葉の意味は「まわりからいろんな味を吸収する」という、普段使うネガティブな意味からのポジティブな意味をもたらされたこの言葉は、おでん カフェの後に行われた鼎談ということもあってかなり印象に残りました。もちろん印象に残っただけではありません。まさに今回、冒頭でも書いた、人とかかわり、事業に触れたことで少なからず“味”を手に入れることができたのかなと思っています。どんなものでも吸収できる、“おでんの大根のような大根役者”を目指していきたいです。

終わりになりますが、今回、この集会で得た学び・気づきをしっかりと自分の中に落とし込んで、これからもNPOおのみち寺子屋の活動及び日常、ひいては地域教育に還元していく所存です。拙い文章になりましたがお読みいただきありがとうございました。また、今回は参加させていただき本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 3年 藤川唯

地域教育実践交流集会 in 大洲に参加させていただいて今回で2度目となります。私は将来、何らかのかたちで地域に貢献したいと考えており、この大洲の場で実際に地域に関わり実践されている様々な方と出会い、つながりをいただいたことはとても貴重な機会となりました。有り難うございます。

今回参加して得た学びは、地域教育は1人でやるものではないということです。私は、将来地域に関わりたい、地域の子どもたちに農業を体験してもらうための活動をしたいと考えていますが、それを課題発見、アイデア出し、実際に企画・行動するまで全て1人で行うものだと考えていました。それゆえに、今までの私は地域に関わること、行動を起こすことはとても大変で、孤独なことだと必要以上に考えてしまっていたと思います。具体的にどのように行動を起こして、行政の協力をいただいて、子ども、人を集めて、場所、物を確保して...と考えるとどうすれば良いのか見当もつかなかったのです。しかし、今回の大洲の機会でお話させていただいて、「考える人と行動する人は一緒になくて良いこと」に気づきました。そして、「まずは自分のやりたいという想いを周りに伝えて、同じ想いを持つ仲間を集めること」が大切だと気づきました。この2つの気づきは、私に、地域に関わり続けること、地域教育を身近に感じさせてくれました。私にもできるかもしれない、やってみたいと改めて思えるきっかけとなりました。

大洲で出会った方々はとても魅力的で、輝いてみえました。それは、多くの方が、自分の中の好き！楽しい！楽しそう！という気持ちに正直に、何かアクションを起こしていること、 したい！という熱い想いを持っていることが自然とそう感じさせてくれたと思っています。人を集めるには自分自身が楽しそうにしていることが1番である、と最近思う機会がたくさんあります。

特別企画で若松さんが言われていた「できる人ができる時にできることをやる」という言葉が印象に残っています。今、学生の立場としてできることは何だろうか。幸いにも、NP おのみち寺子屋の学生として、地域に関わる機会をたくさん頂いている立場にあります。地域を愛し、地域と関わり、人と関わり、この地域のために地域をより良くするために自ら考え、想いを周りに発信し行動して参りたいと思います。今、目の前のことに精一杯取り組むことで、今後の人生を生きる糧にしていきます。

最後に、2日間大変お世話になりました。有り難うございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 1年 二宮裕樹

まず、約1年前から第11回地域教育実践交流会 in 大洲の準備をされた皆様、ありがとうございました。私は今回大洲に初めて参加させていただきました。「地域教育」という同じ目的をもった方々にたくさん出会えたこと、生まれ育った地元である、愛媛県にこのような素晴らしい事業があったこと、とても嬉しく思います。私は今回の大洲で、大きく2つのことを学ばせていただきました。1つ目は、想いを力に即行動することの大切さです。想いを持つことだったら、誰でも持つことはできます。しかし、その想いをすぐに諦めてしまう人が現在多くなっています。そんな中大洲に参加されていた方々は、「地域を変えたい！盛り上げたい！」という想いを力にすぐに行動されていました。即行動することは、正直不安がたくさんあると思います。ですが、大洲に参加された皆さんと話していて皆さんが口をそろえていったことは、「自分のやりたいことをやるだけ」「やってやれないことはない」といったことでした。自分のやりたいことをやっているからこそ、すぐに行動できるだろうと感じました。さらに、その想いを継続させることも大切だなと感じました。いくら地域に貢献したいと思っていて行動しても、短い期間だけだったら、根本の地域教育にはつながりません。地域の盛り上げには、長い期間続けることが必要だと思います。やはりそのためには地域をまずは知り、地元愛をはぐくむことや何事も挑戦しながら、自分のやりたいことを行動に移すことが大切だなと感じました。

2つ目は「つながり」の大切さです。個人的な話ではありますが、わたしは「ご縁」というものを大切にしています。なぜなら、人生は一度きりであるし、何事も何かしらの縁で出会ってなかったら、今の自分はないと思うからです。私は同じように地域教育にも、ご縁や人とのつながりが大切だと思います。地域を盛り上げるためには、まず地域の人々とのつながりを作らなければなりません。いくら経験や想いをもとに行動しても、一部の人だけが動いていては、地域は盛り上がりません。地域の人々と密着に繋がるのが大切なのです。また大人だけではなく、子供や若者、大人の3世代、つまり縦のつながりがないと、将来の地域を担う子供たちが大きくなった時に、うまくいきません。高校生から80代の方まで参加されている大洲で、沢山のひととおでんカフェや分散会などでお話することで、とても多世代間のつながりが大切だなと感じました。

今回何かの縁で大洲に参加し、繋がったご縁を大切に、ただその場の関わりではなく、繋がりをもとに自分から積極的に行動をしていきたいと思っています。最後にますますの各地域の発展を祈願して終わりにしたいと思います。誠にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 1年 匂梅秀輝

私は今回参加させていただいて、たくさんの学びと気づきを得ることが出来ました。

まずは、この二日間で得た学びについて書いていきたいと思います。

今回私が地域教育実践交流集会に参加した目的は、たくさん社会で活躍されている人がいらっしゃるというので、まず自分が苦手としている社交辞令などのビジネスマナー、

そして、自分が過去に経験したことのない名刺交換を実践するということでした。

今回参加して、社交辞令に関してはやはり社会で活躍されている人たちは、初対面の人への言葉のかけ方などが今までの経験である程度形としてあって、そこから相手を見て話す技術がすごいなと感じました。やはり、社交辞令やビジネスマナーは経験によるところが大きいんだなと感じました。私は、今回参加する前よりも、初対面の人と普通に話すことが出来たように思います。これからも、社会に出る前にこういった場でたくさんの人と流ちょうに会話できるようにしていきたいと感じたよい機会になりました。

また、名刺交換に関しては集会に行く前に20枚の名刺が渡されていてその20枚をすべて交換することが出来ました。しかし、名刺交換に不慣れなせいかどの名刺がどの人のものか分りかねるということが、家に帰ってからおきました。名刺は交換して終わりではなく、そのあとどの名刺がどの人のものか分るような工夫が必要だということを身をもって体感しました。しかし、こういった課題が生まれるのは多くの方が大事な時間を自分のために費やして下さって交換したということで、その方たちの名刺が分らないなんてもったいなかだということに気付かせてもらえて、これからは活かせるよい経験となりました。次に、この二日間で得た気づきについて書いていきたいと思います。

私はこの二日間でたくさんの人のお話を聞いたり、お話をしたりしました。本当にみなさん考え方が違えど、最終的な考えでは、地域みんなのため、人のために何が出来るのかという考えです。それについて本気で考え、悩み、失敗して、何が悪かったのかを考え、違う方法で挑戦する。そういう姿にひかれました。本気で考えるとはこういうことなんだと気づかされました。分科会で発表されていた方の話を聞いていても、まずはやってみるそうしなければ何も始まらない。ということに気付かされました。このことは頭でわかっているつもりでしたが、本当に本気で実践している人の話を聞いているとここまでしなければやっているうちにすら入らないのだ。と思いました。こういった気づきで、今の自分は変わろうとしています。本当に、実践している人に会うと自分の今までを大きく塗り替えられるような衝撃で影響されました。この活動は、自分のような何かしたいけどできない若者に力をくれます。これからも、参加させていただきたいです。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

安田女子大学 2年 波平夏希

大洲に参加したこの2日間は沢山の参加者から元気や刺激、新しいモノの考え方や観方を再発見できた貴重な二日間になりました。夜の会で大人の方とお酒を交わした時は、自分が大人の一員に慣れた気がしました。一方で子供みたいにはしゃぎながら夢を語るキラキラした大人の姿に胸を打たれました。私の中の今までの大人像は 仕事が大変、人間関係が面倒くさい、空気を読んで行動 Etc などのマイナスなイメージがありました。しかし大洲にいた大人たちは、自分の〇 したい！という思いを持った人が沢山いて熱量が大きくて、パワフルで、“大人って意外と楽しそうかも！！”という風に私の中の大人像が大きく変わりました。

この二日間、普段出会わない沢山の大人の方とお話しして、特に心に残ったお話があります。それは「YES マンになりなさい」です。その方は人から頼まれ事をされたときは、その内容を聞かないまま「はい、喜んで」と話を受けようです。その方曰く、頼み事は出来そうな人に依頼する。だから、依頼人はあなたなら出来る！と信じて依頼しているのだから、その方の期待に応えるべきと仰っていました。この話を聞いた時、確かにそうだなと納得しました。私は新しいことに挑戦する時、中々一歩が踏み出せません。しかしこのお話を聞いたとき、今までの私は勿体ないことをしてきたのだと気づきました。確かに新しいことに挑戦することは勇気が必要です。しかしこの一歩を踏み出して「はい、喜んで」とお話を受けることで、そこから学ぶことや新しい人との出会いがあるのだと学びました。また、最初は乗り気でなくても、取り組みの中から楽しさを見出すことで、自然と愛着も湧いてくる、と仰っていました。私はこの方の自分の置かれた場所で、楽しさを見出し、自分の居場所をつくっていく、というお話にとても感銘を受けました。私も楽しみを見つけながら作業に取り組むことは得意です。そのため、この方のこうした生き方を私も参考にしようと思いました。

この2日間このような温かい場所に参加できて本当にうれしかったです。この日のために1年前から企画を考えてくださり、ありがとうございました。分散会やおでん カフェでは沢山の学びを得ることができました。この学びを日常生活で生かしていき、この1年で沢山の事に挑戦して1回も2回も成長した姿でまた大洲に行きたいです。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島修道大学 3回生 泊野大樹

まず、今年も大洲という地で大変多くの学びの機会をいただき本当にありがとうございました。私は今回の第11回地域教育実践交流集会 in 大洲にて、三回目の参加になりますが毎年大洲の地に来るたびに、そこに集まる方々の熱量の高さに圧倒されます。今年の地域教育実践交流集会 in 大洲では、おでん caféなどの今までにはなかった取り組みも行っており、十一回目という開催になっても尚新しい取り組みを行っておりその姿勢に感服しております。今年私は、大洲に行く前に、「より多くの人とご縁を繋ぐ」「そのなかで自分の知らない教育のかたちを見つけに行く」という二つの目標を持って今回の交流集会に臨ませていただきました。そんな中で私は、二日目の特別企画にて鈴木さんと若松さんのお話されていた、つながりと関わりのお話がとても心に残りました。この地域教育実践交流集会では、多くの人と沢山のお話をさせていただきました。地域を盛り上げる為に様々な団体の良いところを取り入れようとする高校生、私たちとほぼ同い年でいながら積極的に地域の活動を行う大学生、忙しい日常の中で自分のやりたいことを最大限楽しみながら活動している社会人の方、それらの方々と、この二日間の出会いだけで終わるのは非常に勿体無いことであると感じました。出会いというのはただその場限りのものではなく、そこからどう繋いでいくかが大切なことです。私はそのことを、今回の交流集会において学ばせていただきました。私が今回の交流集会で、一番今までで違うなと感じたことが一つあります。それは昨年自分がお話しさせていただいた方々から覚えていただいていたことでした。自分のことを相手が覚えていてくださり、その相手のことを自分も覚えている、それはお互いが、短い時間の中でもお互いを認め合えるような話ができたと感じています。そのようなお話を去年の自分ができていたことに喜びを感じるとともに、去年の自分が頑張っていたおかげで、その方々と今年はより深い話をする事ができたことに一種の達成感を感じることができました。私は、この地域教育実践交流集会 in 大洲は回数を重ねれば重ねるほどにまるでおでんのように味が染み込んでいくものであると思います。来年また参加した時には、さらに多くの人と「お久しぶりです」という挨拶ができると思うと今から来年が楽しみでなりません。このような機会を与えてくださった運営の皆様に変更して感謝の気持ちを述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 1回生 箱田倫大

私は地域教育実践交流集会に参加して、0から1を作る楽しさ、地域教育を行う楽しさ、すばらしさに気づかされました。私は東広島市で両親が共働きの子供を対象に居場所づくりを今年度から始めました。5月ごろから初めて7ヶ月が経とうとしていますが今まで目立った活動もしていませんでした。とりあえず学習支援だから勉強させておこう、居場所支援だから一緒に遊ぼうというようなことしか考えていませんでした。正直に言うとその活動の運営を任されたのですが、苦に感じていました。楽しいなと思うこともありませんでした。しかし今回の交流集会に参加させていただいて全国で地域教育をされている方とお話しをして地域教育に対する考えが大きく変わりました。分散会では地元を知るといことで、ARを活用した活動を中学生が行ったり、また子供ではなく、保護者のほうから図書館の活用について考えられていたり、想いの強い方が本当に多いのだなと思いました。特に鹿部町教育委員会の方との出会いは本当に私の今後の地域教育への考え方を大きく変えてくださいました。子供の居場所づくりもしながら、地域の活性化、近隣市町村との交流、体験活動、子供の成長などたくさんのことをやられていて、その話を聞くとすごいなと思いました。また2日間多くの地域教育に携わられている方とお話しをしていく中で、こんな企画があるんだ！こういう活動があるんだ！と驚きの連続でした。また地域教育実践交流集会は単に地域教育だけの話ではなく、人間性についてもたくさんの方からお話できたことはすごくうれしかったです。私自身、周りからとても影響を受けやすいのですが、受けやすいのも自分の芯がない、軸がないからということに気づかされました。自分って何がしたいのだろう、そういうことをこれから考えていくきっかけにもなりました。地元の地域教育でなかなか活動を興していくことができないのも、行動する前に考えているからなのだと気付かされました。たくさんの人に質問して分かったことは、とりあえずやってみるということです。考えるのは後からでもできると多くの方が言っておられました。今の私に足りないのは積極性なのかなと思います。そして過剰に心配しすぎるといことです。危機管理を考えることも大事ですが、命に関わることでなければ多少は子供に任せることも大事ということも知りました。最後にはなりますが、今回地域教育実践交流集会に参加できたことがすごく自分のためになりました。2日目に若松様が仰られていましたが、関係ではなくつながりを意識して、今回学びをいただいた方、分散会で一緒になられた方と連絡を取り合って、さらに学んで自分を、地域を磨いていきたいと思っています。2日間ありがとうございました。また来年も参加するので、1年後に成長した姿で、そして自分の行っている地域教育に誇りをもって帰ってきます。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島経済大学 3回生 北山孔貴

私は今回で、この交流会に参加するのは3回目になります。このたび参加して学んだことが2つあります。

1つ目は、地域教育のボランティア活動に学生が参加していることは、当たり前ではないことです。普段私は、大学生や過去学生時代に参加しておられた社会人スタッフさん、そして柿本総督と研修を行っているため、この環境が当たり前だと思っていました。しかし2日目に、大体の人は仕事を定年退職してから地域教育に携わっているから高齢化が顕著に現れている、学生という若者がいることがうらやましい、という言葉聞いて、はっとしました。学生同士で研修をしているこの環境は、当たり前ではないということに気づかされました。3回目の参加で初めてのことでした。

2つ目は、だからこそこの活動は続けていかなければならないということです。めざましトークでも言わせて頂きましたが、私は来年度最高学年になります。NPOおのみち寺子屋が開催している人間力育成塾を、後の世代にしっかり残していくのが大切なのではないかと考えています。そのために、若いうちから地域教育のボランティア活動に携わっていることに誇りをもってもらうこと、学生同士で切磋琢磨できる環境があることが、実は当たり前ではなく、とてもありがたいことなんだよ、ということを伝えていきたいです。

また、この地域教育実践交流集会 in 大洲が、とても暖かい場所であることも、再認識することができました。毎年お会いする方からは、ようきたね！、元気にしとった？、と暖かく迎えてくださりました。分散会場では、こちらがした質問に対して、熱心に答えてくださりました。そして、今回一番驚いたことがあります。それは、分散会場が3年連続一緒になった方がいたということです。2度あることは3度ある、とよく言いますが、まさか本当に現実になるとは思っていませんでした。神様は少しいじわるなのかなとおもいました（笑）

毎年参加していますが、毎年違った学びを得ることができるこの交流集会に、来年もまた参加したいです。

最後に、交流集会を開催するにあたって、何ヶ月も前から準備されてこられた、実行委員のみなさまに感謝申し上げます。

2日間、本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

尾道市立大学 1年 木村亜香里

今回初めて地域教育実践交流会に参加させていただいた中で、私がいただいた一番大きな学びについて書きます。それは、一步踏み出すことの重要性です。分散会でお話されていた方々は、だれもかれも何かしらの活動をされている方でした。口で「私はこんな世の中にしたい!」「私は人の役に立ちたい!」と言うことは言わずもがな簡単で、まして心の中でそう願っている人はこの世の中に山程いると思います。かくいう私も、漠然としたその中の一人です。しかし、実際に多くの人間を巻き込んで行動している人に日常生活で会うことはそうそうありませんでした。交流会にはそんな人々があふれ、圧倒されました。心の中に秘めた気持ちをなぜ行動に移せたのだろう、私とこの人たちの違いはなんだろう、と疑問に思いました。実際に分散会でお会いした方に質問させていただき、返ってきた言葉の中で「無我夢中」というワードが心に残っています。それを教えてくださったのは、勤めていた施設を辞めて自ら工房を開いて障がい者の居場所づくりに尽力される方でした。施設にいても自分の目指すものは得られない、作れないという焦りや怒りでいっぱいになったその無我夢中な一瞬に、勢いで行動した、だからもしそういった感情がなかったらそのままの環境で生きていたと思う、と穏やかに話される姿からは、職を離れて自営するというような大きな決断をする方には見えず、激しい感情も外からは見えませんでした。しかし、ご本人が語られる通りその方を突き動かした瞬間があり、その一瞬を逃さなかったから、今この場所にいらっしゃるのだなと感じました。チャンスの神様は前髪しかない、という言葉をおの100の中でよく耳にします。私はその比喩から、チャンスは滅多に掴めないものだと思っていました。しかし今回その方とお話しさせていただき、チャンスは自分の中で生まれるもので、手を伸ばして掴むのではなく、一步踏み出すために背中を押してくれるものなのではないかと考えるようになりました。大洲に来られていた人の多くに、そうして背中を押された瞬間があったのだと思います。これから何かご自分の信念を持って活動をしている人に出会ったときは、その方の背中を押された瞬間について聞いてみたい、また私自身もこんなものに背中を押されてこれを頑張っているのだと、他人に伝えられるような人間を目指したいと思いました。前述したとおり私にはまだそれが無く、漠然とした思いしか持っていませんが、きっとはっきりしたものを見つけます。そして、大洲で出会ったすべての人のような、“何かを全力で頑張るかっこいい姿”で生きていきます。

最後に、この大学一年生の冬に大洲で素晴らしい方々にお会いできたこと、ご縁は一生忘れません。本当に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

広島大学 4年 廣瀬麻理

4回目の参加となった今回の大洲でもたくさんの学びとご縁をいただきました。ありがとうございました。

2日目の特別講演でも話題にあがった「カッコいい大人」の方々とお話しさせていただき、積極的に動いていきたい、と刺激をいただきました。皆さんそれぞれのお仕事がある中で各団体に所属しておられ、熱意をもってやりたいことをされている。そして大洲に集まってそれぞれの取り組みについて想いをもって語り合う。そんな場にさせていただき、私も皆さんのように語れることを成し遂げたいと思いました。私は来年から小学校教員になりますが、子どもたちの目にも元気あふれる、強い想いの先生はカッコよく映ると思います。魅力ある先生になるためにもまずは自分から何事にも積極的に取り組んでいくことだと考えます。分散会で同じだった方に、自分のやりたいことを追求し続けたい、という方がおられました。現実的なことを考え始めるといくらでも歯止めはかけられますが、自分の感情に素直に行動されている姿は輝いて見えました。私も思うだけで終わらせず、その想いをカタチにしていきます。

また、つながりをつくる人、そして強める人になりたいという想いも抱くことができました。小学校教員として現場で子どもたちと関わりますが、保護者の方とのつながりを作っていきたい、保護者だけでなく地域住民とのつながりをつくりたい。そして地域同士のつながりも築きたい。また、そのパイプをつくって終わるのではなく、一緒に子どものために活動していくことを通して深く関わっていききたいという想いが芽生えました。新任の教師にできることは限られていると思います。現場に出れば精一杯かもしれません。ただ、子どもと長い時間を過ごす教師が地域教育に対して理解をしていて、こちらから地域へ歩みよることができれば教育環境を改善できるきっかけになると思います。授業の中でも地域の方を招いて共に授業を行ったり、学校外に出て行って地域の協力を得ながらの活動をしたりしたいです。そのためにも教員同士のつながりも欠かせません先輩教師の支えや上司のネットワークで可能性が広がられていきます。横のつながりで学校全体から地域に広げていく、その足がかりになりたいです。「若い力」で現場を盛り上げていきたいと感じました。

今回の大洲では社会人を目前にしたこともあり、それぞれの活動内容だけでなく、様々な生き方をされている皆さん自身に学ぶところが多くあったように思います。行って終わり、ではなくまた来年良い報告ができるよう、地元に戻って地域のために奮闘します。2日間たくさんの学びをありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

近畿大学 3年 槇達也

私は、2回目の参加でした。去年、参加した時の楽しい雰囲気が好きになってまた来たいと思いました。初めから楽しみな気持ちで参加することが出来ました。アイスブレイクや雰囲気づくりから楽しんでもらおうと思って準備されたものだからあの会場の雰囲気が出来上がったのだらうと思いました。また交流会などで関わる時には何話したいかわからなくてもなにか話したいと思える雰囲気でした。今は自分の実践や経験が少なくてまだまだ話を引きだしたり質問したりもなかなか出せませんでした。発表を聞いているだけでワクワクしてくるイメージも浮かんで来てたくさん学ばせてもらえまだ知らない考えをきいて頭の中でもまとまりきらないくらい知れたと思います。私自身もっともっと学びたい知りたい関わりたいという気持ちが大きくなりました。かわりをチカラにを体感できた瞬間だと思いました。自分の力がまだまだなことにも気付けたのですが、そんな生き生きとした大人の姿は普段みたり関わったりすることはなくあのパワフルさや自然体な姿にカッコイって思えたのとたくさんの元気、力を頂けました。飲んだり食べたりするときはハジケているのに分散会などではやってきたたくさんの実践を熱意を持って話されていて楽しむときもやるときもどちらでもいい表情や姿をしていてそこに憧れました。それに影響を受けて私も自分を常に発揮して周りに力を与えられる存在になりたいという目標を見つけることができました。また将来したいことも広がったように感じます。私は、自然の中で生まれ育ったので山や海の雰囲気が好きなのですが自然科学についてももっともっと学び、新しい発見をしたいと思っています。そこに関わっていき仕事と並行でやっていきたいと思っていました。ですが、学んでいくだけでなくそれを通してまちや人に何かできることはないか考え今回あった方のように実践していくそんなこともやっていきたいとまた思えるようになりました。今はまだまだ学び足りないものを学ぶことに力をかけていきたいと思っています。ですが、将来的にはそれだけでなく自然を通してまちや子どもに関われることをやりたいです。関わる中で自分が学ぶだけでなく、人が自然と自然に関われるような環境をつくりたいです。そういった活動をしていく背中を追いかける際に大事なことも知ることができました。おでんカフェなどを通して、ただ学ぶだけでなくここでできた関わりをつなぐりに変えていくことも教えていただきました。つながりはここからスタートだという言葉が私は気に入っています。私自身もあの日がまたスタートを切る場所という揺らいでいた決意や想いを再確認する機会にもなりました。ものすごくたくさんの考えや想いが込み上げて見失いそうにもなりました。ただ、今は残りの大学生活で自然科学を学びつくし、そこから将来のアイデアを膨らませていきます。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 井上真吏奈

今年で4回目の参加となる地域教育実践交流集会でもたくさんのエネルギーと学びを頂き、濃い2日間となりました。2日目の朝のめざまし企画の「おでんカフェ」は、一つの大きなテーマはぶらさず、前のグループが話し合った結果を参考にしながら深掘りを繰り返し、そこで得た意見や考えをホームへと持ち帰ることで、短時間で異なる意見に触れた初期メンバーの新たな考えをきけるという部分がとてもいいなと感じました。「共通」のものとして親近感を感じられる部分と「新鮮」なものとして新たな発見ができる部分がバランスよく存在していたような気がします。

【丁寧+貪欲でつながる！？】

懇親会等の時間でたくさんの方とお話する中で、一つひとつの仕草がとても丁寧な方ばかりだと思いました。話をしている相手の目を見ること、相手の話を最後まできくこと、相槌を打つこと、握手をすること(などの肯定的ストロークがたくさん散りばめてありました)。おのみち寺子屋でもこれらの大事さは実感していましたが、私は意識してどうにかできるレベルで止まってしまっていて、最近はできていなかったなと今回気付きました。しかし、大洲に来られていた方々は自然とそれらが体に染みついている、こちらがどんどん話をしたい、聞いてほしいという気分にさせてくださりました。それにプラスしてこの活動をどうしていこうか。これからの将来のためには何が必要なのか。を常に考えておられて、会う人会う人から少しでもヒントを得ようとする貪欲さ・熱量の強さを感じました。目の前の一人ひとりを想った丁寧な行動・自分の所属する活動への愛情とこれからを想う熱量が人と人を強く結び付けて、活動の未来へと繋がっていくのだろうなと強く思いました。

私は今社会人となり、尾道から離れ、愛媛で過ごしています。過ごしていく中で、おのみち寺子屋愛情はあるものの、なかなか顔を出せない状況であるため、寺子屋の活動のこれからのために私がつながられるものがないように思えてきてしまっていました。そんなタイミングの中でこの交流会に参加できたことは私のおのみち寺子屋に対する考え方、関わり方を今一度見つめなおすきっかけとなりました。その機会をくださった地域教育交流集会にとっても感謝しています。

第11回も本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 加良莉夏

今年、地域教育実践交流集会に4回目の参加をさせていただきました。これまでにたくさんの素敵な、愛と熱意に満ち溢れた方々にご縁をいただき、その方々と、一年に一度、大洲でお会いして挨拶を交わす度に、たくさんのパワーをいただいています。本当にありがとうございます。

今回、社会人として初めて参加し、学生の頃とはまた違った学びをいただきました。これまで、自分の参加しているNPOおのみち寺子屋の活動をより良くする学びをいただきたい!との思いが大きくありましたが、今回参加して、地域の大人として、自分ができることはなんなのかを考えなくては、と思える機会になりました。まだまだ、私自身が地域に問題意識を持って向き合ったことが少なく、人に用意していただいた場所で、いただいた仕事をしている、と思うことがよくあります。それも大事なことではあると思っていますが、でも、もっと自分で問題意識を持って、自ら動くことが、地域のためにも、周りの人のためにも良い影響があるんだと、改めて感じました。私の生まれ住んでいる街のために、私ができることをもっと真剣に考えます。また、一人ではできないので、仲間を見つけて大切に、しっかり対話をしながら、目的を見失うことなく考働していきます。

地域教育に携わる方は、街が、人が、大好きで、大好きなもののために、問題意識を持ち一歩を踏み出せる方だと、大洲の皆様をみて思います。それぞれの活動に問題意識を持って尽力されているから、いつでもキラキラして、パワフルで、魅力が溢れ出ているのだらうなと思いました。私も、自分にできることをできるときにできるぶんからちょっと背伸びして。そんなふう、自分にできることからキラキラとした人になれるよう、顔晴っていきます。まだまだ意識は自分に向くことばかりですが、もっと周りの人のことを考えることを意識して生活していきます。

また今回、「向かい風に翻る旗は美しい」という言葉をいただきました。今まで、なんでもサラッと、上手にすることがかっこいい、と思っていましたが、それだけでは通じない、逃げたくなる場面にもぶちあたることが増えた、と思うことが多くなってきているので、壁にぶつかったときにも、今、自分が理想とする姿に近づいているんだ、と、そのことにも感謝しながら、上手にすることだけにこだわらず、泥臭く、踏んばっていきます。

来年、また参加することができたら、より多くの方々と情報交換できるよう、私の言葉で話せることをしっかり用意してお邪魔しますので、どうぞよろしく願います。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 窪内真帆

第11回地域教育実践交流集会に関わる皆さま、2日間大変お世話になりました。今年もあたたかく迎え入れていただき、多くの学びと出会いと前向きなエネルギーをいただきました。本当にありがとうございました。

2日間を通して、様々な場面で「私の“根っこ”は何だろう」ということを考えました。仕事と、生活と、「おのみち」での活動。今の私にとっては全て大切ですが、そのような場面や手法に限らず、もっと根本的に私が“根っこ”としたいものは何かということです。懇親会でそんな話をさせていただいた方からは、「思いっきり欲張って続けてみたらいい」という言葉をいただきました。10年20年先から、今の私の目の前を照らしていただいたように感じました。周りの人と比べすぎたり、先のことばかりを考えたりするよりも、今居られる場所で、今一緒に居られる仲間と共に、今の自分にできることをコツコツ楽しんでいこうと思えました。ぼんやりと見え始めた私の“根っこ”も、今ここで行動し続けていけば自然と深く強く育っていくものだと思ってみることにします。

楽しくパワフルな皆さまと出会い、様々なことを語り合うことができた大洲の会は、大変濃くあたたかく楽しい時間でした。出会いやご縁やつながりを大切にしつつ、自分が信じる道で行動（実践）を続けている姿が、あの会に溢れていた「カッコいい大人」の秘訣なのだと思います。静かに待っているだけでは、何も変わらないかもしれませんし、何より自分が楽しくありません。おかげさまで、私は今も、「よし！がんばろう！」と燃えています。

そして、この会で皆さまからいただいたエネルギーを、今度は自分が関わる地域や活動の中で、しっかり活かして「行動（実践）」していくことが、私にできる1つの恩返しなのだろうと思っています。私も、皆さまのように笑顔で生き活きと生きる「カッコいい大人」でありたいです。

また来年、NPOおのみち寺子屋としても、私個人としても、新たな目標と課題を持って皆さまと晴れ晴れと飲み笑い語り合えるよう、これからの1年も、私は私なりにしっかり挑戦し、思いっきり楽しみ、この「おのみち」の地でみんなと一緒に活動することに心から感謝しながら、毎日を濃く過ごして参ります。第11回地域教育実践交流集会を企画・運営してくださった皆さま、共に飲み笑い語り合ってくださった皆さま、アツくて充実の2日間を、本当にありがとうございました。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 原知里

出会いと学びが盛りだくさんな、熱い二日間を、有り難うございました！今回で3回目の参加でしたが、一番得るものが大きい2日間だったように思います。

今年は、大きく二つの学びをいただきました。一つ目は、「するぞ！」と決めた行動は、素早く、その時に取ることです。それも、自分の中で「やりたい！」が大きいうちに！

二つ目は、「つながり」、「ご縁」を大切にすることです。私がいただいたモノ（学びや元気、知識等）を、私の中に取り込んで、私のよさに変えて、私と私の周りの幸せを創っていくことも、「つながり」、「ご縁」を大切にすることだと思えます。私は今、高校教師として働いています。日々関わっている生徒たちと、この後一生会わないのだとしても、私と関わったからこそ得られた何かが、その子の中に残って、その子の周りの人の幸せにも少しでもつながるのであれば、私はもう最高に幸せです。まずは私が周りのつながりと一緒に、幸せに生きる！そして、他の人も一緒に幸せにする！

今回の参加では、私自身、多くの課題が見つかりました。特に改善していきたいものが、次の二つです。

1. 問題発見と解決がなかなか結びつかないこと。
2. 公共心に欠けるところ。(自分の「want」を優先し過ぎてしまう。)

1. に対しては、「課題あるはず意識」を常に持つこと、何か気づいたら、「じゃあどうする？」と自分に問いかけること、を意識します。1人だけではなんとかできなくても、他のモノとつながりながら、行動に踏み出していきます。何事も「自分ごと化」していきます。2. に対しては、「周りからどう見られるか?」「誰に、何に影響がいくのか」を考えること。優先順位をつけること。を意識し、常に考える癖をつけます。

大洲での二日間、「寺子屋の学生たちはすごいね！」というお言葉を何度もいただきました。また、鼎談でもおのみちの学生のことを話題に上げていただきました。そのたびごとに、今まであの場所で素敵な姿を魅せてくれていた学生たちと、今年の学生たちの姿が合わさったような気がして、とても嬉しく思いました。自分たちの活動だけでなく、私たち自身のよさまで多くの方に認めていただき、私は本当に今いるこの場所が、おの100が大好きなのだと、再確認しました。毎日楽しいこと成功ばかりではありませんが、一つ一つに意味を見出し、よりよい、生き生きとした1日にすべく、小さなことから行動していきます。大洲で出会った方々と同じくらい実践を積み重ねた「カッコいい大人」になります。自分の身近なところから盛り上げていきます。また一回り大きくなった姿で皆さまにお会い出来る日を楽しみにしています。

第11回地域教育実践交流集会 in 大洲レポート

NPOおのみち寺子屋

社会人スタッフ 木曾裕介

『かかわりをチカラに、つながりをカタチに』、私はこの地域教育実践交流集会 in 大洲のテーマが大好きです。今年でこの交流会に参加させていただいて4回目となりますが、参加するたびに全国各地から集まったたくさんの方とご縁をいただき、みなさんと語る中で『実践すること』の大切さと難しさ、そしてそれ以上のやりがいや楽しさを感じることができています。

交流会のテーマである『かかわりをチカラに、つながりをカタチに』ですが、地域に生きる1人としてこの言葉の大切さを強く感じています。現在も私が関わっているNPOおのみち寺子屋のメイン事業の「おのみち100km挑戦隊」、この事業に始めて出会ったのは今から12年前の小学校4年生の時でした。体も小さく、自分に自信のない小学生が友達や大学生スタッフに支えられ、苦しい100kmの道のりを歩き抜いた経験は強烈で、これまで中学校や高校、大学と困難な壁にぶつかった時に、逃げることなく自分を支えてくれたモノでした。私にたくさん関わってくれた当時の大学生や仲間がいたから今の自分があります。私はそんな体験を今の子どもたちにして欲しい。多くの人と関わる中で自分に自信を持って、社会の中でイキイキと活躍できる子どもたちになって欲しい。その為の居場所創りや体験が出来る環境を生みだしていく事が、子どもの頃に周囲の人からいただいた“ご恩”を返していく事なのだと思います。

今年の大洲で出会った言葉の中でしっかりと残っている言葉が「本気で求めていれば自然と向こうから集まってくる」というものです。人とのご縁であったり、成長のチャンスであったり、自分の想いを強くもち、イキイキと活動している人の周りには気づけば自然と人やモノが集まってきます。今回の大洲でご縁をいただいた皆さんの周りにもきっとたくさんの魅力的な人やモノがたくさん溢れているのだと姿から感じる事が出来ました。そうした出会いがまた新しい出会いを生み、さらなる可能性を広げていってくれる、出会いの力の素晴らしさを改めて感じる事の出来た2日間となりました。

地元に戻り、子どもたちにとって郷土愛を持てるような居場所創り、拠点づくりを目指し、実践を繰り返しながら、また来年には一回りも二回りも成長した姿で、みなさんにとって少しでも可能性を広げられるような姿で大洲に戻ってきます。2日間有り難うございました。